一般質問通告書

2025年6月3日

高島市議会議員 河越 安実治 様

高島市議会議員 10番 森脇 徹

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

- 初問は
- 1. 全項目一括質問一括答弁
 - 2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 3) 発言事項	小規模校で学ぶ児童生徒を軸に考える高島の教育を
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
<p>昨年度に「高島市小中学校再編基本方針」が示され、市内小学校13学校中学6学校の今後の在り方を計画された。今後の高島市内小学校中学校課題では、市外の学校へ転出される小学・中学・高校生が増える状況の中、児童生徒を軸にした、すべての児童生徒にゆき届く学校教育を目指して、市内児童生徒が誇りをもって市内小中学校に入学する、そうした学校づくりの努力を願いたい。</p>	
<p>小学生1,826人、13学校、中学生1,105人、6学校と少子化がさらに進むもと、小規模学級小規模学校の良さを活かし、児童生徒を軸にした高島教育を願い、質問する。</p>	
<p>① 小学校ではR7年度から全学年で35人学級編制が実現した。また中学校では40人のままだが、滋賀県は36人を超える学年には加配教員を配置して対応されている。一方、小学校は36人では1クラス18人の2クラスだが、35人では1クラスだ。中学校でも40人と41人で同じ課題が残る。</p>	
<p>特別支援クラスは、異学年8人以下は1学級(6~8人は加配対応)であるが、個々の特性が大きく異なる上に、学年が異なる指導は難しいと聞く。中学校の35人学級編制の早期実現を県および国に要望されているか。</p>	

- ② 通常の学級における特別な支援が必要な児童生徒が、約14%と聞く。きめ細かな支援のため、実態に応じた教育支援員の配置は、県の補助の支援員含めて、本年度2名増員で27名が配置されている。今後、現場での必要性の判断を含め充実の方向でいくのか。
- ③ 複式学級対応は、教員の加重負担軽減からも県加配に加え、市独自支援が必要だ。この点で、県加配と市対応で、規定では市内小学校で5クラスの複式対応予定が、加配教員により複式対応を2クラスに出来ていることは評価したい。一方で、単式学級にはない複式学級の良さもまた児童生徒や関係者も共有していることだ。現場教員への時間での更なる加配支援、教員連携の強化などを強め、きめ細かな子どもに寄り添った高島教育を期待したいがどうか。
- ④ 再編基本方針では、「再編で学校力の確保できた」とするが、地域、保護者含めた総合的な教育力は再編前と検証されたか。
- ⑤ 再編計画では、統合後には高島学園に続く小中一貫校として再編方針を示す。10年間の小中一貫校、一貫教育をどう検証し、再編後の新学校で課題が克服される教育方針をもったのか。